

学習者用デジタル教科書が拓く

学習支援の可能性を軸とした

学習環境

東京学芸大学附属小金井小学校
鈴木 秀樹・佐藤 牧子

通常学級に在籍する児童の中には、障害や読み書きの困難さを抱えながらも、周囲には気づかれにくい場合が多々ある。そのような児童の多くは、「やる気がない」「怠けている」等と捉えられて適切な支援を提供されず、学習の遅れや意欲の減退、心身の不調等二次的な障害へつながることがある。そうした児童への有効な支援ツールとして期待されるのが、2019年4月から正式に「教科書」として認められる学習者用デジタル教科書である。本研究では光村図書出版の国語（5年）を例にその可能性を探った。



「読む」ことの支援

学習者用デジタル教科書には、読み書きに困難を抱える子への支援に有効と思われる機能が数多くある。「読む」ことの支援として、紙の教科書同様のレイアウトタブとは別にリフロータブが用意されている。これを使えば、文字の大きさや行間の広さ、書体などを調整して自分の「読みやすい教科書」に調整することができる。一文ずつのハイライト表示や、読み上げ機能も実装されている。



「書く」ことの支援

「書く」ことの支援としてマイ黒板機能がある。画面上に黒板、下に教科書の本文が表示されており、本文をなぞると、なぞった部分が上の黒板に短冊として表示されるので、「本文をノートに書き写す」ことを回避できる。また、「問い」「答え」といったスタンプも用意されていて、必要に応じて黒板に押すこともできる。



グループチャットツール

残念ながら、現状では学習者用デジタル教科書に、児童同士がマイ黒板を共有するための機能がないが、これは授業では必須の機能である。そこで、学習者用デジタル教科書を支援ツールとして有効に機能させるために、本実践ではMicrosoft Teams（グループチャットツール）を組み合わせた。



支援の実際

児童からは「読み上げ機能は、何度も聞き返せるのがいい」「マイ黒板だと間違えてもすぐ消せるから楽」等ポジティブな反応があった。全員が学習者用デジタル教科書を使える環境を用意できれば、通常学級におけるインクルーシブ教育を実現するための有効なツールに成り得ると期待できる。

東京学芸大学附属小金井小学校
ICT × インクルーシブ教育

 ict-incl@u-gakugei.ac.jp

 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~ict-incl/>